



令和元年度 教育実践記録論文 受賞者一覧

教育実践記録論文集「いぶき」

自分の実践を振り返り、まとめることで、新たな可能性が見えてくる



応募作品一覧

一般部門

【優良賞】（3編）

一人一人の主体的な学びのために
～国語科の実践を通して～

八幡小学校 教諭 海老原 梨紗

国語科の学習を通して、児童一人一人が主体的に学ぶ姿を目指し、年間計画及び単元計画を構成した。大切にしたのは、魅力的な言語活動を設定し、「教材との出会い」を充実させること。そして、どの学年、他の教科・領域にも発展させることのできる「系統的な学習」を行うことである。児童に自分の思いを表現させる際、2つの共通項目と、1つの自由項目という設定を意図的に組むことで、主体的な学びの姿を獲得することができた。

「あいさつ NO.1 の八幡小」を目指して
～児童・保護者・地域・教員全体での取り組み～

八幡小学校 教諭 山一 裕紀子

どの学校でもあいさつを学校経営の中心と謳っている。本校でも、「ジャンボ 八幡っ子！」の学校教育目標の下、あいさつを重視している。子供が主体的にあいさつできることは何よりも大切と認識し、代表委員会を中心として取組を考えた。どこでもしているあいさつ運動では意味がない。そこで、「あいさつができます」と言える児童を育成するために、さまざまな取組と多くの方の協力を得ながら実践を行った。

自閉症・情緒障がい特別支援学級での授業の工夫
～iPadの活用を通して～

東国分中学校 教諭 井上 菜美

自閉症・情緒障がいの特別支援学級・6組には、通常学級で交流という形で授業を受けることが難しい生徒が多い。しかし、進路を考えると通常学級と同じ進度で学習する必要がある。そこで、通常学級の授業をiPadで録画し、それを6組で活用する授業を展開した。巻き戻し・停止・拡大ができることで安心して学習に集中し、学力を伸ばしている。生徒が「これならできる」という経験をつみ自信をつけて生活してほしいと願い、本実践に取り組んだ。

フレッシュ部門(経験5年以下部門)

【最優秀賞】 (1編)

心を豊かにし、暮らしを広げる読書活動
～つながりを大切にした取り組み～

須和田の丘支援学校 教諭 野口 由紀子

生徒と本をつなぐためには、どのような工夫が必要なのだろう。個性あふれる生徒たちの本のとらえは幅広く、ユーモアに溢れている。市内の学校図書館や公共図書館とのつながりに支えられながら、「面白そう、入ってみたいと思える図書館」を目指して取り組んだ3年間を「読書週間の取り組みと学校図書館の整備」「本に関心を広げる授業」「中央図書館へ行こう～地域とのつながり、生涯学習の芽生えを育む～」の、3つの実践を通してまとめた。

【優秀賞】 (2編)

主体的・対話的で深い学びを目指して
～第5・6学年での実践を踏まえて～

若宮小学校 教諭 池田 優人

理科学習における主体的・対話的で深い学びの実現に向け、どのような手立てがあるのかを2年間研究してきた。主体的→児童が、価値のある課題だ。と感じ、知りたい・わかりたいと思うこと。対話的→同じ課題に価値を見出した者同士が課題と向き合い、自分の考えを他者と交流して、新たな考えを見出すこと。と置き換え、様々な手立てを講じてきた。

実践を通していく中で、生活経験と関連付けながら学習を進めていくことで主体的な学習が進められる。全員が共通の疑問を持つことで児童の対話を促すことができるという成果を得ることができた。

小学校英語の充実を目指した評価へのアプローチ

～小学校英語におけるよりよい評価方法を目指して(授業実践を基に)～

大和田小学校 小学校英語専科 内川 佳代

学級担任と指導員が「外国語の授業を一緒に行う」という意識をもって連携を図っていくために①個々を見取るための授業の流れの創出②個々を見取るための場面の創出③個々を見取る方法等の共有へのアプローチを進めてきた。小学校英語への学級担任の不安感を軽減し、よりよい評価方法を目指して取り組んだ実践である。

【優良賞】（2編）

主体的・対話的で深い学びをめざす国語科学習

～『意見や感想を共有し、自分の考えを広げる力の育成』～

真間小学校 教諭 川添 英樹

次期新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善が求められている。国語科における物語文の出会いは様々である。本実践では、宮澤賢治の生き方を知り物語を読み進めるという設定をした。その上で、0次の工夫や、読書交流会で互いの思いや考えを共有化した。作品に描かれた人物の心情の変化や情景描写、他の作品との比較、そして作者自身の生き方に目を向けながら、様々な視点の読みが生まれることを目指して実践した。

特別支援学校における外国語活動

～五感を使った体験的な授業を目指して～

須和田の丘支援学校 教諭 山本 瑞稀

学習指導要領が改定され、来年度から小学校で全面実施となる。外国語活動や外国語が本格的に始まり、特別支援学校でも外国語活動ができるのではないかと考えた。外国語活動に取り組むにあたり、児童や教師の課題が見えた。お互いが楽しい外国語活動になることを目指し、特別支援学校における五感を使った体験的な外国語活動の実践をまとめた。

*学校名は、令和元年度在籍校です。

市川市教育委員会 学校教育部 教育センター